

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>ホームページや地元自治体の児童発達支援関連の連絡会等で情報を提供している</p> <p>事業所が所属する社会福祉法人福田会は地下鉄広尾駅から徒歩数分の場所で児童養護施設、福祉型障害児施設、障害児・特定相談支援事業所、認知症高齢者グループホーム、都市型経費老人ホーム、第2種社会福祉事業放課後等デイサービス、就労継続支援B型を運営している。ホームページは法人として運営されており、施設紹介の中で当該事業所を紹介している。また、地元自治体の児童発達支援事業者と児童発達支援センターの連絡会に参加し、事業所の情報を提供している。また、区内で実施される保護者向け事業所説明会でも情報を提供している。</p> <p>パンフレットは保護者向けとは別に図や写真を活用した子ども向けを作成している</p> <p>パンフレットは保護者用と子ども用があり、A4二つ折りで持ちやすいサイズである。保護者用には事業理念、事業所概要(営業日・時間・定員・料金等)、利用までの流れ、アピールポイント(送迎サービス・昼食提供サービス等)を簡単なイラストを入れて紹介している。子ども用は文字数を少なくし、ひらがなを使い、時間は時計のイラスト、送迎は車の写真、昼食はイラスト、活動は写真で紹介するなどわかりやすいものになっている。パンフレットは行政や障害児の保護者団体に配布している。「ガイドライン評価表」の結果を保護者、都、区に報告している。</p> <p>子どもや保護者の見学の際は、子どもの様子を見ながら対応している</p> <p>見学は、利用希望者が主であるが、同一建物にある福祉型障害児施設宮代学園の来訪者が見学に来ることもある。また、地元自治体の児童発達支援事業者と児童発達支援センターの連絡会の際にメンバーが見学をすることもある。利用を希望する子どもと保護者の見学の際、事業所ではできるだけ子どもと一緒に見学に来てもらうこととし、利用児童がいる時間帯での見学を心掛け、保護者への説明と合わせて子どもの様子を観察している。見学時の説明は児童発達支援管理責任者である管理者が1時間ほどかけて行っている。</p>		
サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2の講評

サービス開始時には重要事項説明書などを読み上げ、重要箇所は丁寧に説明している

事業所ではサービス開始時に、重要事項説明書、利用契約書、送迎サービス確認事項について読み上げて説明している。さらに、重要なポイントは強調して伝えるなど子どもや保護者が理解できるように工夫している。子どもが同席する場合は、絵本を用意するなどの対応を行っている。事業所では子どもや保護者と話ができる良い機会ととらえ、説明を行うだけではなく保護者からの相談を受け、意向を把握するなど2時間ほどかけて丁寧に対応し、同意を得ている。子どもや保護者の意向については児童状況記録として記録し、アセスメントシートを作成している。

児童の状況を把握し児童状況記録を作成、開始直後の不安が軽減されるよう支援している

児童状況記録では「利用者基本情報」「医療情報」「アセスメントシート」「食事情報提供書」「食物アレルギー質問票」「除去食品確認書」を作成している。アセスメントシートでは基本生活習慣、生活スキル、コミュニケーション、社会スキル、課題支援、その他(注意点)、本人及び家族の希望を把握している。事業所では利用前の見学時に子どもの様子を把握し、開始後は子どものペースに合わせて、様子を見ながら声かけし反応をみて対応し、不安軽減に取り組んでいる。また、利用前の生活については事前聞き取りにより情報収集し支援に活用している。

サービス提供記録や面談により、サービス終了時の不安軽減や継続性に取り組んでいる

前年度は高等部卒業による退所者が2名でている。そのうち1名は20歳までの利用となり再利用契約をしている。事業所では日々のサービス提供記録に利用者のサービス終了前の様子を詳細に記録し、また、個別支援計画の面談時にサービス終了後の生活について子どもと保護者と話し合いを行い、不安軽減や支援の継続性に取り組んでいる。同一法人内には福祉型障害児施設宮代学園があり、同学園入所による退所者や同じく就労継続支援B型広尾ジョイワークへの入所により退所する利用者に関しては施設間で情報共有し、継続した支援を行っている。

サブカテゴリー3

3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	11/11
---	-----------------	-------------------------------	--------------

評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたくうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしきみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリー3の講評

児童状況記録に基づきアセスメントを行い、一人ひとりの課題を場面ごとに明示している
 「利用者基本情報」「医療情報」「アセスメントシート」「食事情報提供書」「食物アレルギー質問票」「除去食品確認書」を作成している。アセスメントシートの大項目は「基本生活習慣・生活スキル・コミュニケーション・社会スキル・課題支援・その他(注意点)・ご本人及びご家族の希望」とし、さらに場面を分けている。例えば、課題支援では自傷、他害、こだわり、破壊行為、無断外出・飛び出し、感情が不安定(不安定時の様子・不安定時の対応)と7項目を挙げている。アセスメントは年2回定期的に見直しを行い、ケース会議を開催し検討している。

個別支援計画は子どもや保護者の希望と関係者の意見を尊重して作成し同意を得ている
 「友達と遊びたい」「基本的な生活習慣を身に付けてほしい」「待つことができるように」など子どもや保護者の希望や要望、相談支援センターからの利用計画書等の意見を尊重し、個別支援計画を作成している。計画は前期目標、評価、後期目標、評価として作成しており、評価では今後の課題も示されている。「周りに合わせて待てる場面を増やす」「…で待てる場面が増えた」などとわかりやすい。目標と評価は子どもと保護者との個別面談で説明し同意を得ている。定期的な見直しは年2回行い、ケース会議を開催し、緊急な変更が必要な場合にも対応している。

児童状況記録では基本情報、医療、食事、食物アレルギーなどの情報を記録している
 利用者基本情報では障害名、家族構成、連絡先など、医療情報では通院先医療機関、服薬、てんかん、疾病歴など、食事情報では食具、アレルギー、嗜好、禁食、量等、食物アレルギーでは別に除去食品等を詳細に把握し記録している。日常の支援ではサービス提供記録を作成し保護者の確認を得ている。子どもの情報については毎朝の連絡会、週に1度行う振り返りの時間、ケース会議、個別支援計画会議を通じて職員間で共有している。毎朝の連絡会では当日来所する子どもの支援に関して留意点などの確認、申し送り、課題についても話し合っている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6/6
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要が生じた場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>契約時に個人情報同意書等により子どもや保護者の同意を得ている</p> <p>同意書の目的では、円滑なサービスの実施や質の向上などで他のサービス事業所、医療機関、行政機関、法人内別事業所、第三者評価機関に使用するとしている。条件では使用目的の範囲内、漏洩に細心の注意を払う、守秘義務を挙げている。内容は氏名、住所、利用者の状態、健康状態、病歴、家族状況等を挙げている。これとは別に「写真撮影、ビデオ撮影及び掲載同意書」を作成し、子どもと保護者の同意を得ている。この同意書には目的、場所、有効期間(途中変更可)が挙げられるとともに個人が特定できないようにする旨が記載されている。</p> <p>子どものプライバシーや羞恥心、価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている</p> <p>子どもの個人情報に関する事柄は常に配慮しながら支援している。着替えの際は、居室の一部をカーテンで仕切っている。夏季はほぼ毎日行う園庭でのプール遊びの際は、時間をずらして着替えを行っている。排泄支援が必要な子どもやお漏らしをした場合は、周りの子どもたちに気づかれないように配慮しながら、トイレの中などで排泄や着替えの支援を行っている。同性介護を基本とするが、現在は男性職員が少なく課題となっている。子どもや保護者の価値観や生活習慣に関しては契約時の聞き取りやその都度要請があれば話し合って配慮した支援を行っている。</p> <p>子どもの意思を尊重した支援を行い、子ども同士の暴力やいじめ等の防止を徹底している</p> <p>日常の支援では可能な限り子どものペースに合わせ、無理強いはずせず子どもの意思を尊重している。常に子どもの様子を観察し、様々な場面で子どもに合った声かけを行いながら意思確認に努めている。子ども同士の暴力やいじめに関しては、必要により距離を取るため屋内と外遊びとに空間を分けるなど工夫し、活動に集中することで他害の予防に取り組んでいる。虐待防止、人権擁護等に関する研修に参加し、職員間で定期的に話し合っている。リスクマネジメント委員会(宮代学園、当事業所、広尾ジョイワーク、相談支援センター)を開催している。</p>			
サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当	

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリ6の講評

現場に即し作成した様々なマニュアルでサービスの基本事項や手順等を明確にしている

事業所は平成26年に社会福祉法人福田会福祉型障害児入所施設宮代学園の全面改築に伴い同一建物内に開設された。開設当初から業務の標準化に向け様々なマニュアルを作成している。法人全体としては虐待防止、事故防止・緊急時対応、防犯、防災などのマニュアルがあり、事業所独自では、業務(行事、トイレチェック表、連絡帳作成など)、全体業務(食事提供、送迎、個別支援、ヒヤリハットなど)、対応(てんかん発作時対応、発熱時・感染症対応など)マニュアルは30種類で、現場に即した具体的な内容であり業務遂行の手引きとして活用している。

サービスがマニュアルに沿っているかどうかを定期的に点検、見直しを行っている

事業所では、朝・夕連絡会で当日の支援に関して情報共有、毎週土曜日に支援、業務の振り返り、月2回の事業所会議では事業所運営課題や情報の共有を行っている。ケース会議は個別支援計画作成時に集中して行っている。宮代学園(福祉型障害児入所施設)、広尾ジョイワーク(就労継続支援B型)と合同職員会議を月1回開催し、福祉関係状況報告、月次報告、各行事検討・報告等を行っている。さらに合同のサービス会議を月1回開催し、各事業所の近況報告等を行っている。様々な会議の場でサービスが基本事項に沿っているか確認し、見直しをしている。

法改正時や支援状況に応じて変更をするとともに、職員、保護者等の意見を反映している

事業所では開設時の平成26年に虐待防止マニュアル、食事提供サービスマニュアル、送迎支援マニュアルを作成している、その後は法改正や支援状況に応じ、平成28年には20マニュアルの新規作成、4マニュアルの改訂、29年度には7マニュアルの新規作成をしている。さらに直近では利用契約書や重要事項説明書を見直している。職員の提案は様々な話し合いの中で把握し、子どもや保護者の意見は「放課後等デイサービスガイドライン」や「福祉サービス第三者評価」の自由意見を反映している。マニュアル等は職員が日常的に活用している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 26/26
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている	
評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている <input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評	
<p>毎日の連絡会やケース会議などで個別支援計画に基づいた取り組みを確認し支援している</p> <p>個別支援計画に基づいた支援を行うため、事業所では毎日職員全員が参加する連絡会を開催し、その日に来所する子ども一人ひとりの支援への取り組みを確認し支援に反映している。社会スキル(余暇活動)対人関係(意思表示)社会参加(集団生活)など目標は様々で、「片付けてから次の遊びへ」「手先を使った余暇提供」「おやつ準備、配るお手伝い」「パズルやる? やらない? 聞く」など具体的である。月2回のてくてく会議や適宜開催しているケース会議で子どもの支援状況について確認し検討するとともに成長や変化に応じた支援に取り組んでいる。</p> <p>子どもの個々の特性に応じ絵カード、写真、タイマーなどを活用し伝える工夫をしている</p> <p>コミュニケーションに課題がある子どもの支援に向けては、写真や絵カード等、視覚的要素を多く取り入れ、独特のジェスチャーや言葉を職員間で共有し、マカトン法(ことばや精神の発達に遅れのある人の対話のために、イギリスで考案された手話法)等を活用し職員と子どもの双方向の伝達について工夫している。絵カード、写真、イラストは子どもの特性に応じ使い分け、文字はひらがなを主とし、時間の理解にはタイマーを活用している。室内の壁には来所してから帰宅するまでの流れを、時計のイラストや送迎に使う車の写真などを活用し掲示している。</p> <p>在籍校、相談支援センター、医療機関等と連携をとって、支援を行っている</p> <p>在籍校の支援計画は保護者を通じ内容を把握し、日常的には送迎時を活用して体調等の情報を得て、体調が悪い場合は検温の様子を見ている。同一法人の相談支援事業所と連携し、サービス等利用計画の内容と当事業所での活動の様子を情報共有している。一方で、他の相談支援事業所の利用者では、サービス等利用計画の把握ができていない場合があり、連携を課題としている。地元区の児童発達支援センターとは連携している。医療機関とは保護者を介して情報を得ている。高校生の保護者に対しては将来を見据えて、福祉事務所と相談するように助言している。</p>	
2 評価項目2 【食事の支援がある事業所のみ】子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている	
評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの状態やペースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている <input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている <input type="radio"/> 非該当

評価項目2の講評

学校の長期休業期間中と土曜日には栄養バランスが良い出来立ての昼食を提供している

昼食は宮代学園の広く明るい食堂で提供している。栄養士による献立は、肉、魚、野菜が豊富で、厨房で作り適温で提供され、子ども達は出来たてを味わっている。「安全管理、危機管理に配慮し、楽しく食事をする」ための食事座席表マニュアルによる座席表を事前に掲示している。個々のペースに合わせてホールに戻る時間を分けている。もちつき大会の大福や企業の寄付による焼き肉、クリスマスのケーキは楽しみの一つとなっている。放課後等デイサービスガイドライン評価表の保護者意見で「給食で色々なものが食べられるようになった」との声がでている。

アレルギー等除去食品の提供に取り組み、食具、椅子にも気を配り安全に配慮している

保護者からの聞き取りで、食事情報提供書(食具・食物アレルギー・好き嫌い・食量・禁食等)、食物アレルギー質問票(対象食品・摂取状況・摂取時の症状・食物アレルギー以外のアレルギー疾患等)、除去食品確認票(卵類、牛乳・小麦・大豆と加工品等)を作成しアレルギー等を詳細に把握している。食事提供手順マニュアルを作成しており、食事開始前に職員が除去食品の有無を確認し、子どもに合わせた食事形態(刻み食)や、食具、椅子の使用など安全に配慮している。調理は委託業者が行うため代替食は提供しているがペースト食の提供はしていない。

食への関心に向け献立表を子どもたちが見える場所に掲示し、活動の中で話題にしている

「今日のお昼ご飯は…」献立表を子どもたちが見られる場所に掲示し、活動の中で話題にし興味を持つように取り組んでいる。夏のプール遊びの後に、自分たちがかき氷機で作ったかき氷を楽しんでいる。「てくてく通信」には笑顔でかき氷を食べている写真が掲載されている。法人行事の餅つき大会に参加し、餅つきを楽しむとともに、みんなでつくたてのお餅でイチゴ大福を作り昼食時に味わっている。食に関する保護者からの相談では、家庭では食べないが事業所では食べる食材の購入場所を尋ねられることもある。事業所での食事の様子を丁寧に伝えている。

3 評価項目3

子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 身の回りのことは自分でできるよう、必要な支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等 (あいさつ、マナー、交通ルール等)を身につけられるよう支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	○ 非該当

評価項目3の講評

一人ひとりの状況に応じて作成した個別支援計画に沿って必要な支援を行っている

アセスメントで基本的な生活習慣(衣服の着脱、排泄、整理整頓等)、生活スキル(日常の意思決定、買い物等)、社会スキル(危機の認識等)等を把握している。個別支援計画では整理整頓やタイマーによる時間の管理、お手伝いなどが自主的に行えるように支援している。基本的な生活習慣等においても、排泄であれば排泄表を作成し排泄誘導の支援を行っている。日常で挨拶の声掛けを行っている。幅広い年齢層の中で年齢や発達の状況により子どもの能力を活用して生活の幅を広げる支援を行っている。一方で、集団活動の機会が少ないことを課題としている。

音楽セラピー活動では個別とグループで行い、絵画や創作活動も取り入れている

土曜日には子どもの状況に合わせて個別と集団による音楽セラピーを実施している。大きなドラム、木琴等の楽器を使ってのリズム遊び、音楽に合わせてストレッチやダンス、絵画や創作、集団でのパラシュートバルーン遊び等で子どもの感性を引き出し、集中力を養っている。講師は「活動内容」「所見」「活動を通して見受けられたこと(言葉を使わない意思疎通、自己表現、集中力、グループワーク等13のチェック項目)」を記録し、所見には子どもの様子を詳細に記載し、笑顔でドラムをたたき姿等の写真も記録している。30年度は平日にも実施している。

一人ひとりの課題に応じた詳細な「個別支援取り組み」を作成し支援を行っている

個別支援計画とは別に「個別支援取り組み」として一人ひとりの課題に応じた詳細な支援内容を作成し職員間で統一した支援を行っている。例えば、「自傷や他害もなく移動できたら…とほめる」「日課の前には声かけと絵カードを使用し…」「関りを求める時は…のようなアプローチ方法に統一していく」などである。送迎は、平日は学校までの迎えと自宅までの送り、学校休業日は自宅までの送り迎えを行っている。送迎サービス確認事項で保護者の同意を得ている。一方で、車いす対応の送迎要望があるが車両が車椅子仕様ではないため対応はしていない。

4 評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○ 非該当
評価項目4の講評		
<p>健康状態、医療情報、アレルギーについて保護者から聞き取り把握している</p> <p>健康状態に関しては利用契約時に保護者から聞き取り、利用者基本情報(氏名、障害または疾病名・手帳区分等)、医療情報、食物アレルギー質問票を作成している。医療情報の項目は、身長、体重、平熱、血液型、通院・服薬情報、てんかん、既往歴、留意点である。食物アレルギー質問票では食物以外のアレルギーや検査の状況も確認している。サービス提供記録や電話で必要な都度確認している。医療ケアが必要な場合は個別支援計画に反映し、同一建物内宮代学園の看護師と連携している。服薬変更等で保護者との情報共有が不十分な時があり課題としている。</p> <p>学校とは迎え時、家庭とは連絡帳やメールで健康状態を把握し、体調変化に対応している</p> <p>学校とは迎えの時に健康状態を確認し、体調が悪い場合は事業所で検温し様子を見ている。てんかん発作がある子どもに対しては保護者から発作の前兆や家庭での様子を連絡帳で把握し、食事支援の時も慎重に対応し、前兆が見られた時は連絡帳で保護者に報告している。常時介護が必要な子どもに対しては、メールも活用し体調を確認している。急な体調変化の際は宮代学園の看護師に相談し、協力医療機関又は指定する医療機関に連絡するとともに保護者に速やかに連絡している。てんかん発作時対応マニュアル、発熱時・感染症時対応マニュアルを作成している。</p>		
5 評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎ あり ○ なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○ 非該当
◎ あり ○ なし	4. 子どもの状況に応じて利用日や利用時間を設定している	○ 非該当
評価項目5の講評		
<p>日常の活動は子どもの主体性を尊重し、子どものペースで支援を行っている</p> <p>下校後、子どもたちはカバンなどを片付け、トイレを済ませ手を洗いおやつを食べ、その後は創作活動や外遊びを楽しんでいる。整理整頓や排泄、おやつ時間は集中することなどを個別の課題やペースに応じて支援している。天気の良い日は広い敷地で外遊び、夏はプール遊びを楽しんでいるが、室内での遊びやゆっくりする等子どもの主体性を尊重している。訪問調査日には、室内で音楽やタブレット端末を楽しむ子達、広い廊下でブロックに興じる2人の低学年児、外遊びを楽しむ子達と様々であった。職員は安全に配慮しながら、見守りと声かけを行っている</p> <p>設置基準以上のスペースであるが、さらに年齢や特性に配慮し室内環境を工夫している</p> <p>事業所の指導訓練室は設置基準の2倍以上のスペースであるが、高等部の子どもと小学部低学年の子どもと同じ環境で過ごしているため人数が多い時は動線が狭くなることがある。利用人数が多い時はテーブルの位置を変え、着替えをするカーテンスペースや廊下を開放する等環境設定を工夫し安全を確保している。また、子どもの特性、組合せにも配慮している。事業所内はバリアフリーで床にはクッション素材が使われ、廊下は広く、多目的トイレも設置されている。室内には創作活動による子どもたちの作品が飾られ楽しい空間が出来上がっている</p> <p>広い敷地を活用した外遊び、室内での創作活動、土曜日は音楽セラピーを実施している</p> <p>事業所は法人所有の広い敷地の中にあり緑豊かな環境である。敷地にはブランコ、サッカーとバスケのゴールがあり、天気の良い日は外遊び、夏はプール遊びを楽しんでいる。創作活動は季節に応じ、こいのぼり、七夕、ハロウィン、クリスマスツリーなどを集団活動で作成している。土曜日のセラピストによる音楽セラピーは、個人と集団に分けて実施している。利用者自由意見では「楽しく通わせて頂いています。帰ってくると満足そうな様子…。毎回楽しみにしています。」などが出ている。利用日や時間は子どもの状況を保護者と確認し設定している。</p>		

6 評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	○ 非該当

評価項目6の講評

連絡帳(サービス提供記録)、電話、送迎時などで情報共有し支援に活用している

事業所では利用日の子どもの様子を連絡帳(サービス提供記録)で家族に報告し、伝えきれないことは送迎時や電話で説明している。また、家庭からの連絡事項として、自宅での様子や服薬状況などが記載され、事業所での支援に活用している。てくてく通信では子ども達の写真を豊富に使い事業所での活動の様子を家庭に知らせている。放課後デイサービスガイドライン自己評価の「日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い…共通理解」の項目で「はい」と回答している保護者が昨年の5割強から8割弱へと増加しており、事業所の取り組みの効果が出ている。

個別支援計画作成時の面談や連絡帳等で家族の意見や要望を聞き取り支援に活用している

個別支援計画作成時の家族面談では時間をかけて意見や要望を聞き取り計画に反映している。計画の本人・保護者の希望としては、「集団生活に慣れる。言葉の理解を促して…。周りの様子に合わせ…」など挙げられ、例えば「言葉の理解」の具体的な支援内容として「言葉や視覚的要素を活用することで…」としている。連絡帳等による家族からの要望に対しては会議の議題とし支援方法を職員間で話し合い、要望を活かした支援を行っている。利用者自由意見では通所日や利用時間を増やしてもらいたいとの要望が出ている。

家族から支援についての相談等に関しては面談時や連絡帳、送迎時、電話で対応している

支援計画面談時には家族の希望や要望の聞き取りと合わせて様々な相談に応じている。さらに、日常的には連絡帳や送迎時を活用して助言や相談に応じている。利用者自由意見では「お話がしやすいのと、いろいろ丁寧です」「分からないときは、説明して頂けています」、放課後等デイサービス評価表では「参考になった助言もいただいている」との意見がある。家族とゆっくりと話し合う機会は今のところ入所時や支援計画の面談時だけであり、保護者会は今のところ開催していないが、必要であれば開催を検討することとしている。

7 評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

放課後児童デイサービス連絡会に参加するなど、行政や地域の情報を収集し提供している

地元区の児童発達支援センターと放課後児童デイサービスの合同連絡会(しゅや児発放デイ等連絡会)に参加し情報収集と情報交換を行っている。また、国や東京都の動向を把握し、「てくてく通信」を活用して保護者に伝えている。平成30年10月号では「報酬算定区分」の見直しに伴い利用者負担金の変更がある旨伝え、11月には報酬算定区分や加算の変更に関しての文書を保護者に配布している。保護者から受給者証更新や短期入所利用等行政手続きに関する相談がある中で、地域の情報を収集して必要に応じ保護者に提供している。

法人敷地内にある他の施設との交流により様々な体験の機会に恵まれている

法人主催の「福田会わいわい祭り」は平成30年10月に開催された。広尾ジョイワークなど法人内の事業所、地元商店街、近隣の大使館の他、遠方の自治体の特産物などを出店、ステージではバンド演奏や高齢者施設のフラダンス、広尾フレンズ(児童養護施設)の子どもたちのダンス等が披露された。事業所では保護者と子ども達にも参加を呼び掛けた。日常的には広尾フレンズの子ども達と敷地内で一緒に遊ぶ機会が多く、また敬老の日には高齢者施設を訪問し交流し、クリスマスには高齢者施設の高齢者がプレゼントをもって事業所を訪れて交流している。